

社会福祉法人 太田福祉記念会 平成 29 年度事業計画

《 理 念 》

- 一、私たちは、利用者の人権を尊び、安らぎと生きがいに努めます。
- 一、私たちは、地域福祉の向上を目指し、保健・医療・福祉の連携をすすめます。
- 一、私たちは、常に専門職として、愛の心と技術の向上に努めます。

平成 29 年度事業計画の概要

太田福祉記念会の理念「誓いの言葉」の実現に向けて、本年度の戦略的重点項目は次の三本の柱とする。

1. 職員の育成による質の高い介護サービスの提供

★ 2. 地域福祉からのまちづくり参画

3. 計画的財務管理による健全経営の維持

「1」について、利用者の信頼に答え得る組織づくりや介護サービスの提供などを行うには、人材の育成が最も大切なこととしてこれまで重点事業に位置付けて取り組んできた。これらの教育、育成された豊富な人材により、組織として利用者に寄り添った質の高い介護サービスが提供できるのであり、この方針は今後とも継続して行く。

「2」全面改定された社会福祉法に基づき、太田福祉記念会の定款も改正を行い、平成 29 年 2 月郡山市長の認可を得たところである。この改正点の一つに、社会福祉法人の新たな責務として地域貢献が規定された。いわゆる 2025 年問題に対応すべく、地域包括ケアシステムなどによる在宅介護の大きな流れは、ますます強くなり、その実現は大きな地域課題となる。これに應えるためには、障がい者や高齢者など対象別の福祉対策を越えた総合的、横断的な取り組みが欠かせない。太田福祉記念会は、こうした地域の多くの機関が一体となって福祉の課題解決に向けた取り組みに、その一員として参画していくこととする。

「3」介護職員の給与所得向上のための処遇改善処置や国の社会保障費削減方針により介護報酬は暫減傾向におかれている。こうした逆風とも言える財務環境の中にあっては、その財務運営の基本である「入るを量りて出するを為す」を常に念頭におき、支出優先順位の高い項目から選別して執行するなど計画的な運用に努めるものとする。上記「1」と「2」の実行可能性は、この「3」の成否により大きく左右されるものである。

★＝新規項目

[1] 平成 29 年度重点事業プラン

★ 経営戦術基本方針

「地域貢献事業の企画・実施」

「福島県一質の高い介護サービスを提供しよう」

1. 太田福祉記念会地域貢献事業（事業費 422 千円）

★ (1) 子ども朝ごはん提供事業（事業費 392 千円）【平成 29 年度～ 主担当：玉川ホーム】

- ・熱海町内の小中学生を対象とした朝ごはんの提供

※食材料費 370 千円、通信運搬費 12 千円、消耗品費 10 千円

(2) 地域密着支援事業（事業費 30 千円）【主担当：法人事務局】

- ①地域福祉の向上に貢献するための事業研究と地域ニーズの洗い出しの継続
- ②地域住民に密着した事業（深沢地区被災者支援施設等）の研究継続

2. 質の高い介護サービス提供事業

(1) ヒヤリハット撲滅季節運動の展開

【平成 26 年度～29 年度 主担当：両ホームリスクマネジメント委員会】

- ・4～6 月 「転倒・転落ゼロ」にチャレンジ
- ・7～9 月 「脱水症状ゼロ」にチャレンジ
- ・10～12 月 「口腔ケア」にチャレンジ
- ★ ・1～3 月 「感染症発生ゼロ」にチャレンジ

3. きらきら人材育成事業（事業費 2,190 千円）

(1) 基本研修（事業費 720 千円）【主担当：法人事務局】

- ①新採用職員ガイダンス（4 月 3 日、対象者 3 名）
- ②新採用者研修（3 カ月間、延 6 回、対象者 3 名）※専門の外部講師報酬 240 千円

★ ③採用 6 年次職員研修（6 カ月間、延 12 回、対象者 6 名）※専門の外部講師報酬 480 千円

(2) 外部専門研修等派遣（事業費 1,470 千円）

- ・年間目標：100 講座 延 150 名

[2] 本部事業

1. 法人運営の安定化

(1) 中・長期事業計画（平成 29 年度～平成 38 年度・10 年間）の研究・策定

- ①政府施策に呼応した事業展開の研究
- ②既存事業のあり方の検討

(2) 玉川ホーム中央棟改修工事施工

①全職員アンケートの要望と財務状況を踏まえた玉川ホーム中央棟改修工事項目の決定

★ ②利用者のプライバシーに配慮した玉川ホーム中央棟居室改装

(3) 法人創立 40 周年事業

①法人創立 40 周年（平成 30 年度実施予定）記念事業の検討

(4) 経費節減

①指名競争入札による経費節減（予算編成時の見積額に対して執行額 3%節減）

②事業消耗品の節減強化

(5) 公的助成制度の活用

①国、県、市等の助成制度による、積極的な補助金、交付金の導入

2. 有能人材の確保・育成

(1) 採用条件“人柄の良い人”の発掘

①有能な人材を確保するための幅広い求人活動の継続

②新採用職員指導者プリセプターの人事運用制度の開発と処遇制度の創設

〔3〕特別養護老人ホーム

1. 利用者に質の高い介護サービスを提供

(1) 経口食事摂取維持への支援（共通）

・嚥下体操の実施などによる飲み込む機能の維持向上

★ （経口維持加算算定利用者数 玉川ホーム 20 名、あたみホーム 40 名）

★ (2) 改修工事期間中の利用者の安全な生活の徹底（玉川ホーム（中央棟））

・長期間に亘る居室利用制限による利用者の健康管理等を徹底

★ (3) 看取り介護体制の充実（玉川ホーム（南棟））

・看取りを行う職員の教育と家族に対する説明及び精神的支援

★ (4) 排泄ケアの充実（あたみホーム）

・自立した排泄継続のための機能回復訓練実施等、多職種連携による支援充実

2. 健全な財務体制の確保と業務効率化の促進

事業所名	長期入所者数(稼働率) ※下段は 28 年度見込み	短期入所者数 (稼働率)	※下段は 28 年度見込み	
			介護	介護予防
玉川ホーム	163.5 名/日 (96.1%) 163.5 名/日 (96.1%)	17.2 名/日 (86.0%) 17.2 名/日 (86.0%)	17.1 名/日 17.0 名/日	0.1 名/日 0.2 名/日
あたみホーム	96.5 名/日 (96.5%) 96.5 名/日 (96.5%)	16.0 名/日 (76.1%) 16.0 名/日 (76.1%)	15.9 名/日 15.9 名/日	0.1 名/日 0.1 名/日

(1) 空床期間の短縮化（共通）

- ・入所検討会を年 4 回以上開催し、2 週間以内に新規入所者を受入れることにより、入所待機者の期待に応えるとともに稼働率の向上に努める

★ (2) 玉川・あたま両ホームが連携した入所受入れ（共通）

- ・玉川ホーム中央棟居室のプライバシー保護工事期間中、稼働率減少を補うため居宅介護支援事業者等へのあたまホーム空室情報提供等による収入の確保

3. 職員の育成

(1) 新採用職員教育の充実（共通）

- ★ ・教育担当職員の育成と当該職員の指導を担うリーダーの養成
- ・がんばっぺ職場研修自己評価表の改正研究と実施

(2) 内部研修会の充実（共通）

- ・太田総合病院及び郡山市保健所の協力を得た各研修会の実施
（感染症、食中毒、口腔ケア、リハビリ 各 1 回開催）

[4] ケアハウス

1. 稼働率の向上

事業所名	入居者数（稼働率） ※下段は 28 年度見込み	1 人部屋（稼働率）	2 人部屋（稼働率）
グリーンライフ	28.0 名/日（93.3%）	26.0 名/日（86.7%）	2.0 名/日（6.6%）
小 機	28.0 名/日（93.3%）	26.0 名/日（86.7%）	2.0 名/日（6.6%）

(1) 新規入居者の確保及び施設の PR

- ・郡山市内地域包括支援センター等関係機関への PR 活動継続（空室情報毎月提供）
- ・福島県内及び首都圏居住者をターゲットとした PR 活動の研究及びホームページの充実

(2) 介護予防の推進

- ・全入居者が参加する「元気クラブ」の開催（毎週 4 回。身体機能低下予防目的の運動器訓練等）
- ★ ・ボランティアと連携したコサージュ制作活動等による、入居者の心身機能の低下防止のためのクラブ活動実施（年 3 回）

2. 入居者の生活環境改善

(1) 入居者による懇談会の開催（年 2 回以上）

(2) 入居環境を改善するため満足度調査を実施する（年 1 回）

(3) 入居者ごとに必要とするケアの情報共有を図るため、サービス担当者会議を開催する（入居者 1 人あたり年 1 回以上）

【5】在宅の介護・支援サービス

I. デイサービス

1. 利用者の自立を支援する質の高い介護サービスを提供

(1) 自立支援を意識した取り組み（太田デイサービス）

- ・個々の潜在力を引き出し、自信を取り戻すための介護と交流の場の提供
- ★ ・利用者が元気にサービスを受けられるための朝食提供（希望者のみ）

(2) 自立支援と認知症進行防止の取り組み（太田玉川デイサービス）

- ・認知機能低下防止につながる、注視力や手の巧緻性の向上を目的とした塗り絵、作品制作の実施
- ・生活機能の維持向上を目指した機能回復訓練の充実

(3) 個別ケアの充実（太田小磯デイサービス）

- ・QOL向上を目指した口腔ケア及び個別機能回復訓練の継続実施
- ・認知症予防、身体機能低下予防に着目した、筋力アップ体操等レクリエーション活動の実施

2. 健全な財務体制の確保

事業所名	営業日数	利用者数	※下段は 28 年度見込み		
			介護	総合事業	認知症
太田デイサービスセンター	310日	22.0名/日 22.0名/日	19.1名/日 20.0名/日	2.9名/日 2.0名/日	-
太田玉川デイサービスセンター	257日	26.0名/日 25.5名/日	17.2名/日 16.1名/日	3.8名/日 3.4名/日	5.0名/日 6.0名/日
太田小磯デイサービスセンター	257日	16.3名/日 16.0名/日	13.9名/日 13.6名/日	2.4名/日 2.4名/日	-

○稼働率の確保（共通）

- ①契約者増（前年比 3%増以上）による目標利用者数の達成
- ②利用者ごとに開催されるサービス担当者会議等を通じた利用回数増の働きかけ

II. ホームヘルプサービス

サービス水準の維持と財務改善

(1) サービス水準の維持

- ・利用者及び家族の意向の尊重と利用者個々の生活状況やニーズに対応した、安全な介護サービスの提供

(2) 財務状況の改善

事業所名	利用者数	※下段は 28 年度見込み			
		熱海		小磯分室	
		介護	総合事業	介護	総合事業
太田訪問介護事業所	12.0 名/日 12.0 名/日	6.7 名/日 4.8 名/日	2.7 名/日 4.0 名/日	0.4 名/日 1.3 名/日	2.2 名/日 1.9 名/日

- ・居宅介護支援事業者等への定期訪問による新規利用者の確保

Ⅲ. 居宅介護支援サービス

質の高いケアプラン作成の継続

○質の高いケアプランの作成

- ・利用者の心身の状況や介護者の生活環境を把握した総合的な援助方針の策定と、保健・医療・福祉が連携した効果的なサービス利用計画の作成

事業所名	利用者数 ※（ ）は 28 年度見込み
太田指定居宅介護支援事業所	142 名/月 （142 名/月）

Ⅳ. 地域包括支援サービス及び介護予防支援サービス

地域に根ざした包括的なサービスを提供

(1) 地域包括ケアシステムへの対応

- ・地域ケア会議の開催（年 3 回以上・地域包括ケアの推進を目的とした関係機関【行政センター保健師、地域の区長・民生委員、医療機関、湖南分署、地区ボランティア、居宅介護支援事業者等】と連携し開催）

(2) 地域高齢者の介護予防推進

- ・地域介護予防教室の開催（10 地区・行政センター保健師と連携し開催）

(3) 若い世代への福祉教育

- ・郡山市立湖南小学校児童を対象とした高齢者疑似体験の実施
- ★ 郡山市立湖南中学校生徒を対象とした認知症サポーター養成講座の開催

(4) 「おいそカフェ まざっせ」の開催

- ・施設の一部を開放し、地域の認知症の方やご家族がなんでも相談できる、なんでも話せる場を提供（年 10 回）
- ★ ボランティアを活用した運営体制の試行
- ★ 住民に参加を呼びかける PR 活動をボランティア等との連携により拡大

事業所名	利用者数 ※（ ）は 28 年度見込み
湖南地区地域包括支援センター（湖南地区介護予防支援事業所）	80 名/月 （80 名/月）